

第2学年だより「ともに つくり 響き合う学年」



2024年4月30日発行第5号



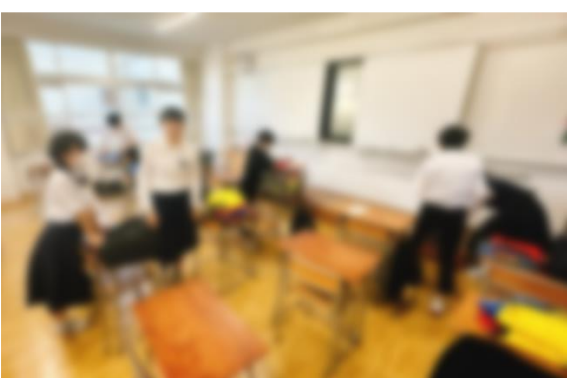
文京区立第九中学校 第2学年
本駒込 3-28-9 Tel.03-3821-7178

防災宿泊体験をとおして深まったクラス・学年の絆



4月26日（金）から27日（土）までの日程で、第2学年防災宿泊体験がありました。2年生になって3週間。この短い間で学級委員会や各係で準備をして当日を迎え、無事、大きなけがや事故もなく1泊2日の防災宿泊体験を終えることができました。

応急手当体験、初期消火訓練、地震体験学習、煙体験学習、仮設トイレ設置訓練、日本赤十字社東京支部の方による災害救助の講演と心肺蘇生トレーニング体験、非常食の飲食など、さまざまな体験をとおして防災に関する正しい知識を得ることができたのではないのでしょうか。この二日間の集団生活をとおして、クラスや学年の絆が深まったと思います。そして、**学年として乗り越えていかなければいけない課題も見つかりました。次は、運動会を目標に、クラス、学年がまた大きく成長できるように一人一人が今回の防災宿泊体験を振り返り、学校生活へ還元していきましょう。**



今回の防災宿泊体験では、講習班、食事班、就寝班の3つの班に一人一人が所属し、その役割を分担しながら準備を進めてきました。3つの分担がそれぞれに避難所での生活を想定した役割で、生徒による自治活動が展開されました。どの班もリーダー、サブリーダーを中心に、昼休みや放課後の短い時間の中で準備を進めることができ、2年生としての成長を感じることができました。



体育館への避難訓練からスタートした防災宿泊体験。開講式後は、5・6時間目の時間帯で、応急手当体験、初期消火訓練、地震車体験、煙ハウス体験、仮設トイレ設置訓練の講習を各クラスローテーションで体験し、実際に災害への備えや災害後の対応を学びました。



夕食は、非常食のアルファ化米とみそ汁を食べました。実際の被災地では、温かいものを食べることは難しいといいますが、今回は、保護者の方のたくさんの愛情によってお湯を準備していただき、温かい食事をとることができました。たくさん学び、疲れた身体に、白米とみそ汁が染み渡るようでした。





夜のプログラムでは、日本赤十字社東京都支部青少年・ボランティア課より3名の講師の方をお招きして、被災地での救援活動に関する講和と心肺蘇生法の実習を行いました。



今回の防災宿泊体験の大きなテーマである「助けられる人」から「助ける人」への大きな一歩を踏み出すことができたのではないかと思います。そして、災害における救助活動の知識と人命救助の柱である心肺蘇生法を学ぶことで、「助ける人」になるための知識を十分に得ることができました。



班長と副班長で構成される講習班のミーティングでは、今日の課題として、「班活動」を中心に振り返りました。自助から共助・公助へとつなげていくためには、自分たちの活動や行動を振り返り、何が足りないかを考えることが大切です。防災宿泊体験後の学校生活へ向けた意識を高めながら、学年のリーダー



ーとしてどのように学年全体のことを考えて班、クラス、学年をリードしていくかを考える場となりました。そして、先生たちからの熱いエールも送りました。

お疲れさまでした!



青学年を支える班長、副班長たち

保護者の皆様へ

26日（金）から27日（土）までの防災宿泊体験につきまして、荷物の準備や健康観察、しおりの確認など、ご協力いただき、ありがとうございました。また、当日、夕食の準備でご協力いただきました保護者の皆様にもお礼申し上げます。

ご家庭でも防災について話題にさせていただき、今回の防災宿泊体験でどのような学びがあったのかをお子さまとお話ししていただけたら幸いです。今後も、本校教育活動へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。